

南区長賞

「挨拶から始まる明るい社会」

笹下中学校 3年 河島 颯汰

「おはよう」、その言葉だけで社会は少しずつ明るくなると僕は思っています。その
に至った出来事を紹介したいと思います。

きっかけは、中学生になってすぐ、友達と登校していると、知らないおばあさんから
「おはよう」と挨拶をしていただきました。その時僕はあまりそういう状況になれてい
なかったため、少し戸惑ってしまいました。そんな僕を気遣って、そのおばあさんが「中
学一年生？」と話をふってくれ、そのおかげでなんとか話をつなげました。

その後、僕は、学年委員に入りました。そして委員会活動の時に、先輩の学年委員の
から挨拶運動の存在を教えてくださいました。その時、僕は、あの登校の時のように
戸惑ってしまわないかと不安になりました。

初めての挨拶運動の日、僕は正門の横に立ち、挨拶を始めました。ですが、初めてで
戸惑っていたのか、全然声が出ませんでした。そんな僕の目の前で、大きな声でハッキ
リ「おはようございます。」と、挨拶をしている先輩達を見て、すごいなあと思って
ました。その日の挨拶運動が終わり、朝の予鈴が鳴り、教室に戻ろうとしていると、
学年委員の先輩方に呼び止められました。なにかなああと、不安に思いつつも「何でしょ
うか」と聞くと、「次の挨拶運動の時、俺らの隣で挨拶してみない。」と聞かれました。
戸惑の事で、一瞬戸惑いましたが、僕は、「はい。」と言いました。

そして次の挨拶運動の時に、先輩の隣に立ち、前回同様挨拶を始めました。ですが、
今回は違う事が一つありました。それは自分の挨拶の声です。前は全然出なかった
けれど、おもいっきり大きな声が出るようになっていました。それを見た先輩が「声がデ
カいよ。やっらの隣にいと、隣にいる方も声がデカくなるだろ。」と言いました。
その言葉で自信がつき、さらに大きな声を出せるようになりました。それからは、先輩
と同級生たちと楽しく挨拶運動をする事ができました。そこで僕は個人的にある事をし
ようと思いました。

このある事とは、よく横断歩道やパトロールで見かける警察官の方、近所の方々に積
極的に自分から挨拶をしていくという至極簡単な事です。ですが、それを今まで僕はで
きませんでした。そして、挨拶を積極的に行っていくなかで、挨拶をすればする
ほど良い気分になる、という事に気がつきました。先輩方も挨拶運動をしている時は、
優しい笑顔でした。その時僕は先輩方は、きっと挨拶の楽しさを知るきっかけを作っ
てくれたのだと思いました。

そして、挨拶を積極的に行っていく中でもう1つ発見がありました。ある休日の朝、
部活があったので、学校に向かっていました。すると、いつも挨拶を返す、知り合

いのおばあさんに「いつも挨拶してくれてありがとう、挨拶を
もうれしいんよ。」と、言ってくれました。その時僕は、挨拶
される側も平等にうれしく、明るくなれる最高のコミュニケーション

そして、そんな最高のコミュニケーションである挨拶をする
分なりに2つほどにまとめてみました。1つ目は、もし挨拶をす
ると感謝の意味もこめて返す。2つ目は、自分が挨拶をする時
見て、相手に聴こえる声の大きさを、ハッキリと挨拶をする。
するにおいて大切にしていることです。この2つを守って挨拶
する側もきっと良い気分になると思います。

今はまだまだ小さい規模の挨拶の輪ですが、この行動を一
人きりきりその街、社会は自ずと明るくなっていくのではないかと
思っています。そのきっかけともなったあの中学生になってすぐに挨拶を
あつたら次こそは大きな声で挨拶をしたいです。

